

## 2 八重瀬町の障がい者の概況

### 2-1 総人口

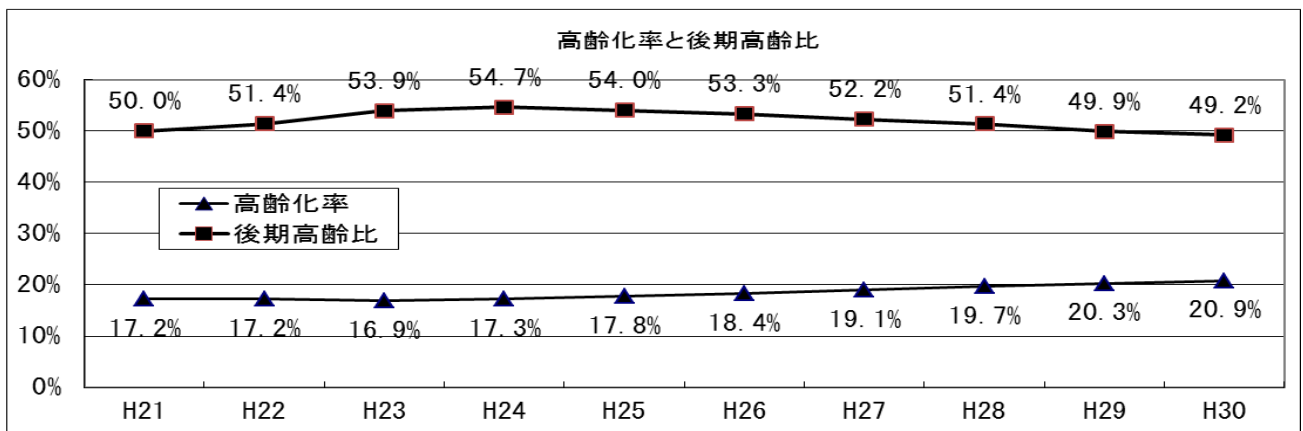
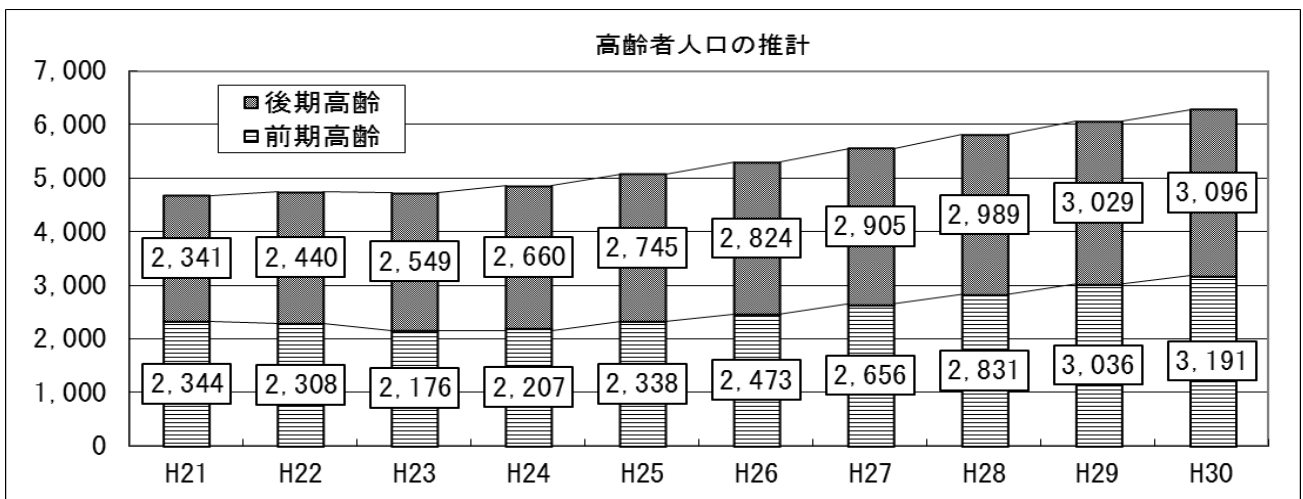
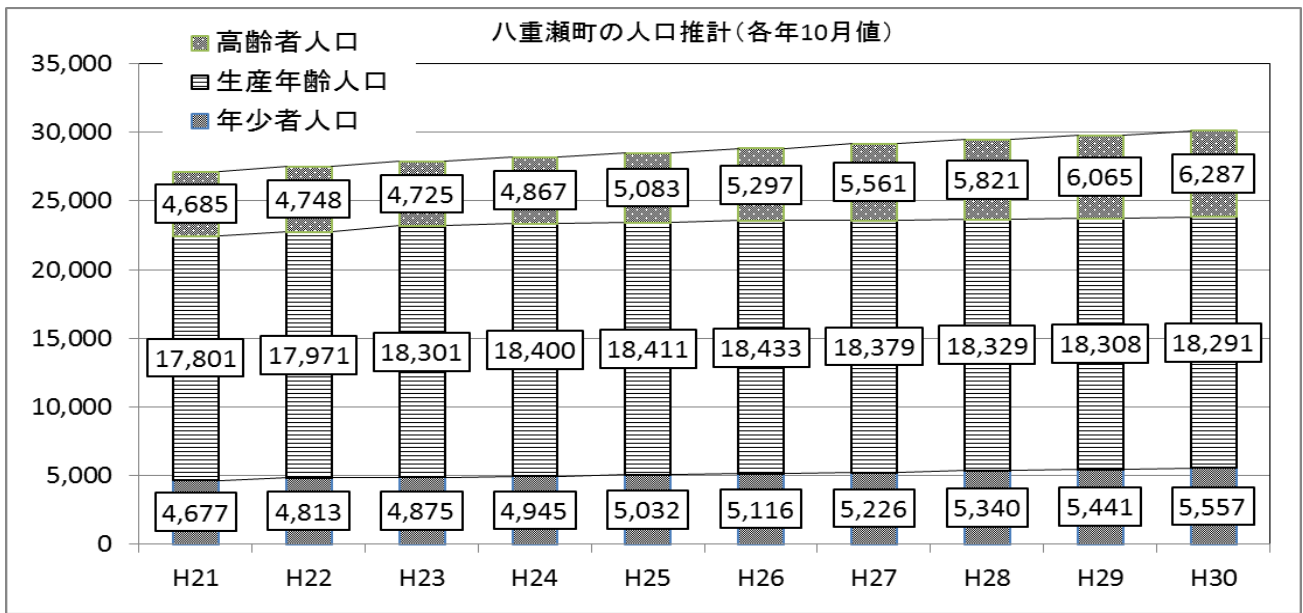
本町の総人口は、平成 21 年（第 2 期障害福祉計画の始期）には 27,163 人でしたが、平成 23 年には 27,901 人となり、この 3 年間で 738 人の増加となっています。

このうち、65 歳以上の高齢者の人口は、平成 21 年は 4,685 人から平成 23 年には 4,748 人となり、63 人の増加となっています。総人口に占める高齢者の割合（高齢化率）は、平成 21 年：17.2%から平成 23 年：16.9%となり、わずかながら減少しています。ただし、高齢者のうち 75 歳以上の高齢者（後期高齢者）の割合は 50.0%から 53.9%に上昇しています。

平成 23 年以降の人口状況をコーホート法（1 歳階級ごとの人口変動率を勘案して将来人口を推計する方法）により推計すると、総人口・高齢者人口ともに増加すると見込まれます。また、高齢化率は緩やかに上昇する一方で、高齢者人口のうち後期高齢者の割合は 50%前後で推移するものと見込まれています。

すなわち、高齢者の実数・総人口に占める割合は増加するものの、高齢者人口のうち比較的若い高齢者（65～74 歳）の割合が半数近くを占めるため、この年代の健康維持・増進を図ることにより、障がいの発生を予防することが期待されます。また、年少人口も増加が見込まれることから、妊婦健診や乳幼児検診の受診を促すことにより、障がいの発生予防や早期発見・早期対応を図ることが期待されます。

図表 1 八重瀬町の総人口・高齢者人口・高齢化率・後期高齢者の割合



資料：住民基本台帳人口

## 2-2 障がい者数

### 2-2-1 身体障がい者

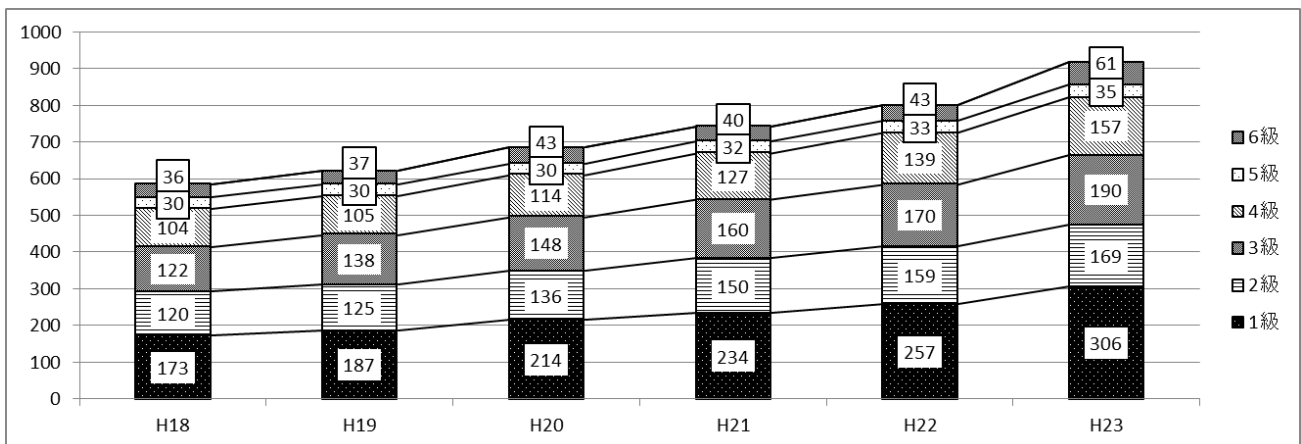
身体障害者手帳の交付数は、平成 18 年(前回の障害者計画の始期)には 585 人でしたが、平成 23 年には 918 人となり、333 人の増加となっています。

等級別にみた場合、身体障害者手帳所持者のうち 1 級所持者の割合が年々高まる傾向にあり、障がい等級の高い人の割合が増加しています。

障がい部位別にみると、肢体不自由がもっとも多く、身体障害者手帳所持者の約 4 割を占めています。次いで、心臓や腎臓などの機能に障がいのある内部障害の人が多く、その割合も増加しています。

肢体不自由については、加齢に伴う手足への障がいの発生、内部障害については生活習慣病の影響などが考えられます。したがって、若い時期からの健康維持・増進を図り、障がいの発生を予防する取り組みが望まれます。

図表 2 身体障害者手帳 等級別交付数



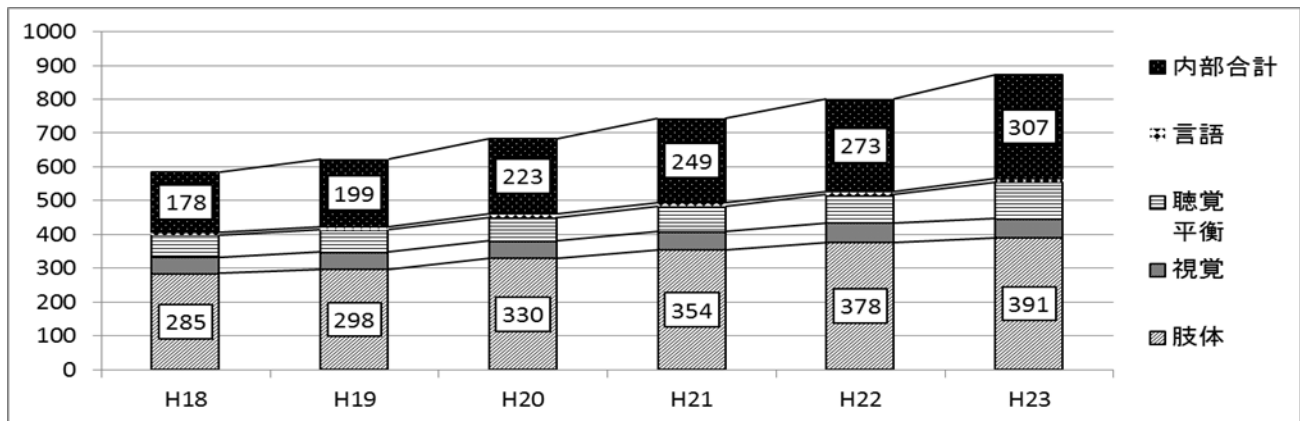
	H18	H19	H20	H21	H22	H23
1 級	29.6%	30.1%	31.2%	31.5%	32.1%	33.3%
2 級	20.5%	20.1%	19.9%	20.2%	19.9%	18.4%
3 級	20.9%	22.2%	21.6%	21.5%	21.2%	20.7%
4 級	17.8%	16.9%	16.6%	17.1%	17.4%	17.1%
5 級	5.1%	4.8%	4.4%	4.3%	4.1%	3.8%
6 級	6.2%	5.9%	6.3%	5.4%	5.4%	6.6%
7 級	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	585	622	685	743	801	918

注：平成 23 年度は 11 月 29 日現在

単位：人、%

資料：社会福祉課

図表 3 身体障害者手帳交付数(部位別)



	H18	H19	H20	H21	H22	H23
肢体	48.7%	47.9%	48.2%	47.6%	47.2%	44.8%
視覚	8.2%	8.0%	7.4%	7.3%	7.0%	6.4%
聴覚平衡	11.3%	10.6%	10.4%	10.2%	10.5%	12.4%
言語	1.4%	1.4%	1.5%	1.3%	1.2%	1.3%
内部(合計)	30.4%	32.0%	32.6%	33.5%	34.1%	35.2%
内部(心臓)	19.3%	20.4%	20.9%	21.3%	21.5%	22.1%
内部(腎臓)	6.7%	7.1%	7.0%	7.1%	7.6%	8.0%
内部(呼吸)	1.2%	1.1%	1.0%	1.5%	1.5%	1.5%
内部(膀・直)	1.2%	1.4%	1.5%	1.3%	1.4%	1.5%
内部(小腸)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
内部(免疫)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
内部(肝機能)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
内部(その他)	2.1%	1.9%	2.2%	2.3%	2.1%	1.9%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
実数	585	622	685	743	801	873

注：平成 23 年度は 11 月 29 日現在

単位：人、%

資料：社会福祉課

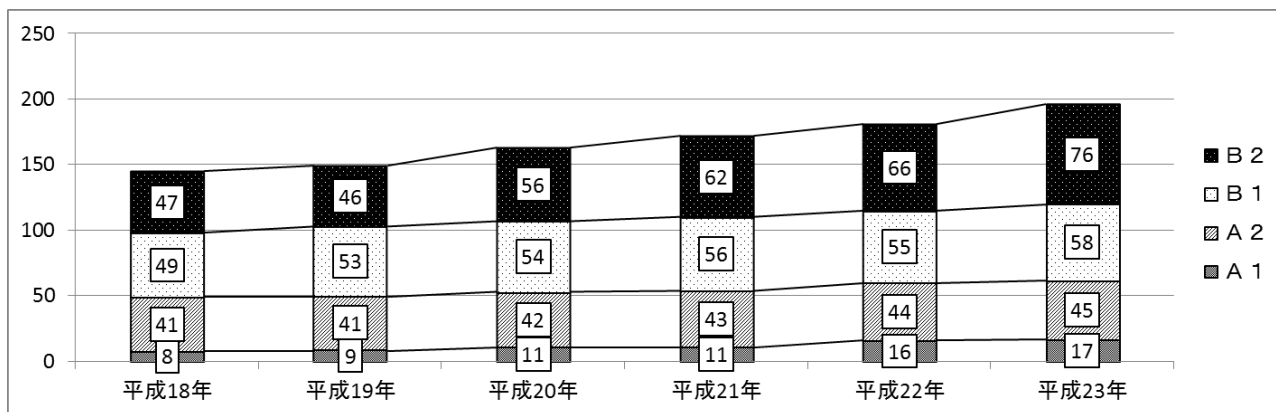
## 2-2-2 知的障がい者

療育手帳の交付数をみると、平成18年には145人でしたが、平成23年には196人となっており、51人の増加となっています。これは、この間に町の人口が増加したことによる影響が考えられます。

等級別にみた場合、A1（最重度）・A2（重度）が約3割、B1（中程度）・B2（軽度）の人が7割近くを占めています。

知的障がいについては、妊婦健診等を通じた母体の健康管理による障がいが発生する可能性の軽減や、乳幼児検診の受診勧奨等を通じた障がいの早期発見・早期対応などにより、障がいのある子どもの育ちを保障する取り組みが望まれます。また、成人期における就労や社会参画などへの対応も必要です。

図表 4 療育手帳交付数



	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年
A1(最重度)	5.5%	6.0%	6.7%	6.4%	8.8%	8.7%
A2(重度)	28.3%	27.5%	25.8%	25.0%	24.3%	23.0%
B1(中程度)	33.8%	35.6%	33.1%	32.6%	30.4%	29.6%
B2(軽度)	32.4%	30.9%	34.4%	36.0%	36.5%	38.8%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
実数	145	149	163	172	181	196

注：平成23年度は11月29日現在

単位：人、%

資料：社会福祉課

### 2-2-3 精神障がい者、精神通院公費負担者

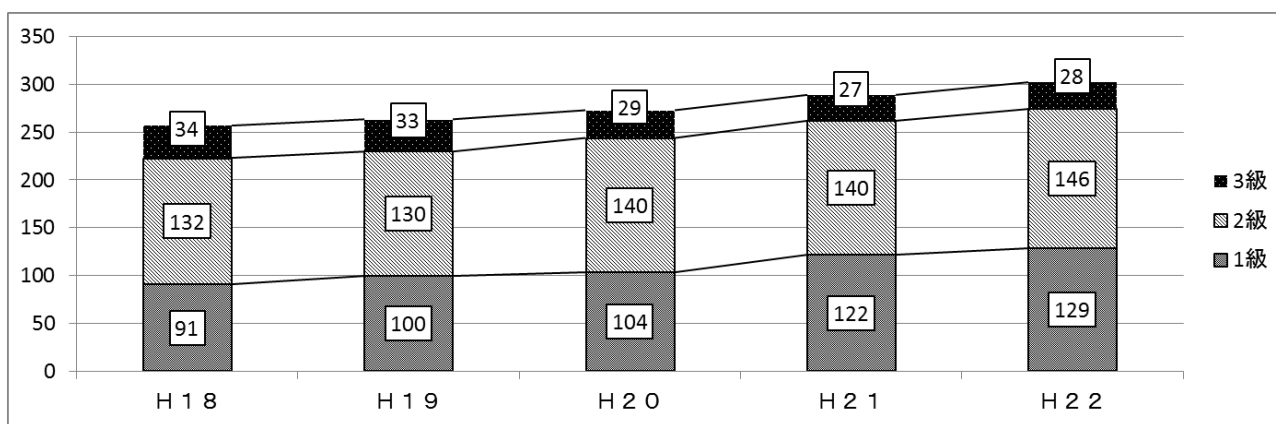
精神障害者保健福祉手帳の交付数は、平成 18 年には 257 人でしたが、平成 22 年には 303 人となっており、46 人の増加となっています。

等級別にみた場合、1 級の人が平成 18 年：91 人から平成 23 年：129 人となっており、他の等級に比べて増加人数が大きくなっています。

また、自立支援医療（精神通院）の公費負担者数は 500 人前後で推移しています。

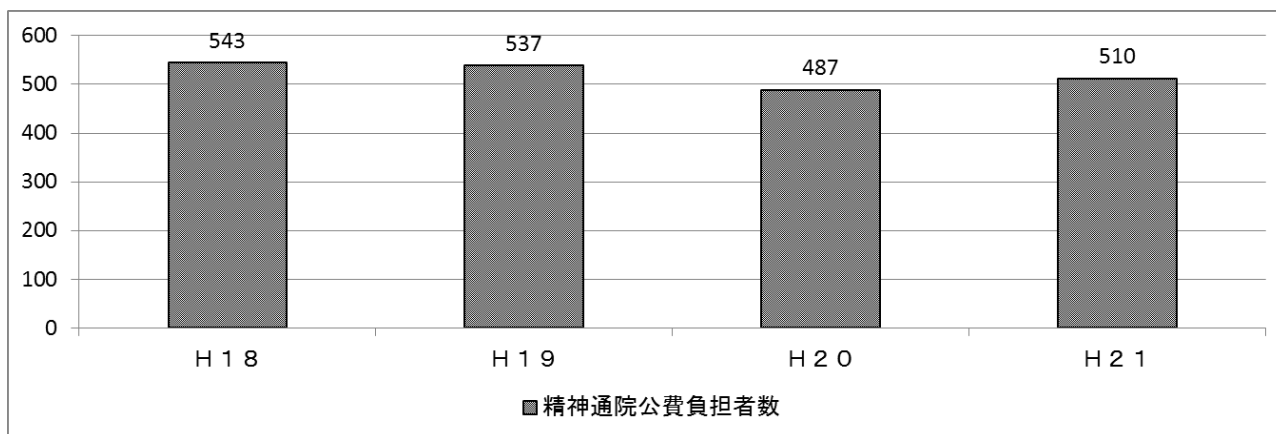
精神障がい者の増加については、高齢化に伴う認知症の増加や社会経済情勢等の影響（失業などによる生活困窮など）なども考えられます。こころの健康づくりに対する取組がより重要となっています。

図表 5 精神障害者保健福祉手帳の交付数



単位：人

図表 6 自立支援医療（精神通院）公費負担者数



単位：人

資料：社会福祉課